

# 人口動態学

木曜・4限  
(14:50-16:20)

5224 教室  
松本 康

## ■授業の目標

人口データを使って社会変動や都市化の過程を理解する。

## ■授業の内容

出生、死亡、人口ピラミッドなど人口学の基本概念や人口転換と社会変動の関連について理解した上で、日本のセンサスデータを使って、都市化・郊外化にともなう都市の人口学的変化について検討する。

## ■授業計画

### (1) 人口と社会

出生率・死亡率と人口転換理論、日本と世界の人口成長の現状、年齢・性別構成と人口ピラミッド、人口転換にともなう人口ピラミッドの変化、平均余命、結婚と離婚、世帯構成の変化など、国単位の人口問題について扱う。

### (2) 都市化と人口動態

人口移動（転入と転出）と人口増加との関連、都市化と人口構成の変化、郊外化と人口動態・人口構成などについて、日本の都市のデータを紹介しながら、人口学的変化と社会経済的变化を交差させて都市化・郊外化の過程を分析する。

## ■成績評価方法・基準

出席点 30 %、レポート（定期試験） 70 %

## ■テキスト

講義資料を配付。

## I. 人口と社会

### 第1回 人口と社会

#### 1. 人口学----人口についての研究

●**人口学 (demography)** : 人口の規模と構成および移動についての研究。

西暦紀元前後の世界人口は、約 3 億人であった。

1650 年になっても約 5 億人であった。しかし、18 世紀の中頃に、世界人口は増加しはじめた。1750 年の世界人口は約 8 億人、19 世紀の初頭に約 10 億人、20 世紀の初頭に約 17 億人、21 世紀の初頭には 61 億人となった。現在、1 年間に世界で約 4 億人の人口が増加しており、2050 年には 93 億人になると推計されている (国連人口部推計)。

2001 年の日本の人口は、1 億 2700 万人。世界人口の 2.1 %を占めている。人口が最も多い国は、中国で 12 億 8500 万人 (世界人口の 20.9 %)、つぎがインドで 10 億 2500 万人 (16.7 %)、アメリカ合衆国が 2 億 8600 万人 (4.7 %)、以下、インドネシア 2 億 1500 万人 (3.5 %)、ブラジル 1 億 7300 万人 (2.8 %)、パキスタンとロシアがそれぞれ 1 億 4500 万人、バングラデシュ 1 億 4000 万人 (2.3 %)。日本は第 9 位。

人口学とは、国や地域の人口の規模と構成、および移動についての研究をする学問分野。人口動態学という学問分野があるわけではない。しかし、人口の静態と動態を次のように区別することはある。

●**人口静態** : ある時点における、あるコミュニティの人口の規模及び構成。

\*ここでコミュニティとは、地理的な範囲によって定義される社会で、地球全体、国、地域 (都道府県、市町村) など。

例 : 2005 年の日本の人口は、127,767,994 人 (国勢調査)。

このうち男性は、62,348,977 人、女性は、65,419,017 人。性比\*は、95.3。

\*性比 : 女性 100 人にたいする男性の人数 (男性 ÷ 女性 × 100)

●**人口動態** : あるコミュニティにおける人口の規模及び構成の変化

人口規模の変化は、直接的には、出生、死亡、移動 (転出と転入) によって生じる。

**自然動態** : 出生と死亡による人口の変化 (→年齢構成の変化)

**社会動態 (移動)** : 転出と転入による人口の変化 (→人口構成全般の変化)

理論的には、人口の増減 = (出生 - 死亡) + (転入 - 転出) となる。

## 2. 人口と社会の相互関係

### ●人口の増減が社会にもたらす影響

人口の増減は、社会に大きな影響をおよぼす。たとえば、人口の増加は、食糧問題や貧困問題をひきおこしたり、都市化をひきおこしたりする。今後予想される日本の人口減少は、活力を失わせると不安がられている。

### ●社会が人口の増減にもたらす影響

人口の増減が、社会的要因と無関係に生じるとは思えない。概して、貧困な地域では、出生率が高く、死亡率も高い。豊かな地域では出生率が低く、死亡率も低い。

人口の移動は、おおざっぱには、貧しい地域から豊かな地域へ、農村から都市へと向かいがちである。

この授業では人口学の基礎的な知識を確認しながら、主として、日本の人口動態と都市の人口動態について、社会との関わりにおいて見ていく。